



深い泉

幸せな贈り物

未婚の母の生活の現実 こんにちは韓国は、子どもを海外に養子に出す分野で、中国、エチオピア、ロシアについて世界 4 位の国家だと国際養子縁組支援団体が明らかにしました。2009 年一年だけでも、1,125 人の子どもが韓国を離れたのですが、保健福祉部統計を見れば、海外養子の 10 人中 9 人は未婚の母から生まれた子どもです。現在、韓国には 2 万 6 千名の未婚の母が存在すると知られている中で、一年に出産する 19 歳以下の青少年は 3 千人あまりにおよぶと言われています。公式統計には出ていない青少年たちを考慮すれば、これよりもっと多いと推定されています。

それだけではなく、社会的に離婚が増加して、親から捨てられる子どもが増えていて、家出と青少年の自殺も急増しています。警察庁の公式統計を見れば、青少年の家出が毎年 1 万人くらいだと言われているのですが、実際には 10 万または 12 万人くらいになるだろうと推定されており、家出する年齢もますます低くなっています。男子学生より女子学生たちの家出が倍で多い中、実際には遊興業店で働いて摘発された 10 代少女の中で 80%が家出した学生だとあきらかにされました。

そのような中、ある未婚の母の告白は、私たちの次の世代に向けて多くのことを考えさせられます。

私が未婚の母になったとき、当時の友だちが言ってくれた方法は、別れて子どもをおろす、別れて出産する、出産して結婚するなど三つでした。いずれも簡単な選択ではなかったのですが、私は別れて出産することにしました。結局、未婚の母の生活施設に入って子どもを生んだ時、聞こえた声は祝いのあいさつではなく、ため息と慰めの言葉でした。

そのあと、私は両親とは事実上、絶縁状態になりました。未婚の母の身分で生き残るために、学校の成績は無条件に 1 位ではなければならなかったし、良い職場と良い年俵を求めてとにかく走らなければならなかったのです。しかし、就職するときに、未婚の母であるという事実を明らかにすれば、その場で脱落でした。専門大学を卒業した 2005 年の冬、デザイン関連の中小企業で面接を受けて、年俵の話

もほとんど終わるころ、私は勇気を出して言いました。「言っておかなければならないことがあります。私は子どもを一人で育てています。未婚の母です」瞬間、社長の顔がひ

未婚の母
そして
生まれてすぐに
捨てられた子どもたち



どくしわくちゃになって「それははじめに話すべきだった。わけもなく、私の時間だけ奪ったのか。私は本当に忙しい人間なのに！」結局、大声を出す社長を置いて、そのまま背を向けて出なければならなかったのです。そのように、九回、結局、未婚の母であることを黙って年俵 1,800 万ウォンの働き口を見つけることができました。しかし、それさえ 6 ヶ月後に体の病気でやめなければなりません。未婚の母になったあと、まるで地球の空気さえ自分が吸われることをいやがっているかのように感じられました。それで、私のような人間も生きても良いということを証明しようと、なんでも熱心にしたし、私が私自身を罪人扱いしているという事実を見ないために、偽って堂々とするふりと努力という仮面をかぶって暮らしていたことをある日、悟るようになりました。その時、私は神様の御声を聞きました。「認められるために努力しなくても、愛されようと苦勞しなくても、あなたがどんな姿でも、あなたがどんなことをしても、わたしはいつもあなたのそばにいる」私に神様はこのような方であることが分かりました。

そして彼女は「これを見つけた自分は幸せで、さいわいな者です」という告白を抜かしませんでした。

それでも道はあります 21世紀、人間に一番恐ろしい病気は、精神病、麻薬、いん乱、エイズとガンの時代になると言われています。もともと性は神様が一番美しく創造されたのです。アダムにエバをつけてくださったとき、アダムはこのように告白しました。「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉…」(創世記 2:23)「人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった」(創世記 2:25)こんなに美しく創造された性と家庭文化が墮落するようになった理由は何でしょうか。聖書の創世記 3章を見れば、サタンの嘘にだまされて、神様を離れるようになった人間に三つの情欲がやって来ました。「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢」(ヨハネの手紙第一 2:16)この時から、人間に墮落文化が始まりました。サタンが人間を破壊させる一番有用な道具で利用したのが性です。いん乱文化を作って、商品化して、文化化して、大衆化して、性的な墮落を当たり前のようにさせてしまいました。聖書は、いん乱文化に対して、このように警告しています。「遊女と交わる者は、財産を滅ぼす」(箴言 29:3)、「むなししいものを追い求める者は貧しさに飽きる」(箴言 28:19)結局、サタンの目標はいん乱の段階を通して、個人の人生を崩して、家庭、次の世代、社会を崩すことです。

しかし、神様が造られた性には、四つの事実が入っています。神様のかたちとして造られた男と女の間の「愛と楽しさといのちを助ける配偶者としての家庭の祝福」が込められています。どのようにすれば、神様が創造された真の人間の幸せを回復することができるのでしょうか。

聖書はもともと人間のはじまりと終りが呪いと滅亡ではなく、永遠な祝福の存在であるをおっしゃっています。科学でも、哲学でも説明することができない神様とともにいなければならない霊的な存在であることおっしゃいます。魚は水の中で生きてるといのちがあって、鳥は空を飛んでいると自由で、木は地に根をおろすと実を結ぶように、私たちの人生も、神様とともにいるときに幸せを味わう霊的な存在として創造されました。霊的な存在である私たちが、神様を離れる瞬間、水から出た魚のようにのどが渇いて苦しくて、鳥籠に閉じこめられた鳥のように人生が息苦しくて、根を抜かれた木のように実もなく枯れていくのが人間の創造の原理です。

このように、神様を離れて生じた問題は、神様に会いさえすれば解決されるのですが、神様に会う唯一の道がイエス・キリストです。なぜでしょうか。イエス様は、聖書に約束されたとおりの肉のからだで人間となってこの世にいらっしやって、十字架で死んで三日後に復活して、神様を離れたすべての人間が神様に会うことができる唯一の道である真の預言者になりました(ヨハネの福音書 14:6)。十字架で私たちの罪の代わりに死なれることによって、私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放させた真の祭司になりました(マルコの福音書 10:45)。イエス・キリストは、死の勢力をうち破って、復活して、今も人間を苦しめて地獄に連れて行くサタン(悪魔)のすべての権威を完全に打ちこわした真の王になりました。それで、聖書はイエス様を「キリスト」だと言っているのです。人間が絶対に解決することができない根本問題を完全に解決した方だということです。このイエス様を私の問題を解決したキリストとして信じて、私の心にお迎えすれば、永遠に神様の子どもの身分を得るようになって、もともと人間が味わった祝福と権威を回復するようになります。いま、この時間に真実な心で下の祈りをささげれば良いのです。

神様の子どもになる受け入れの祈り

「愛の父なる神様、私は罪人です。神様を離れてサタンの支配の下に縛られて、奴隷となって生きていました。しかし、いま、この時間、イエス・キリストを私の救い主、私の主人として受け入れます。

イエス・キリストが神様に会う唯一の道になって、サタンの権威を打ちこわして、すべての罪と呪いと災いから私を解放したキリストであることを信じます。いま、私の中に入って来て、私の主人になってください。いまから私の一生を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン」

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネの福音書 3:16)

一人だけいても世の中を生かす
ことができます。

「それから、彼を退けて、ダビデを立てて王とされましたが、このダビデについてあかしして、こう言われました。『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心になかった者で、わたしのこころを余すところなく実行する。』」(使徒 13:22) 「エルサレムのちまたを歩き巡り、さあ、見て知るがよい。その広場で捜して、だれか公義を行ない、真実を求める者を見つけたら、わたしはエルサレムを赦そう。」(エレミヤ 5:1) 「彼らは、私の心をも、あなたがたの心をも安心させてくれました。このような人々の労をねぎらいなさい。」(1コリント16:18) このみことばの主役が、まさに重職者です。



1. 個人化 - 神様のみことば、祈り、伝道が私のことになる日、働きは起きます。これが最大の鍵です。伝道の目だけ開かれても、祈りができて、みことばが出るようになります。皆さんは、祈りをどのようにしていますか。皆さんの子どもたちが、みことばを握って祈りができて、答えを受けて

いたら、何も気づかう必要はありません。皆さんは神様の子どもであることが確かだから、祈りさえできれば、どんなことも変えることができます。福音の中で、みことば、祈り、伝道が私のみことば、私の祈り、私の伝道として味わうことが個人化です。

2. 弟子化 - 個人化になれば、自然に多くの地教会が開かれるようになります。この時、一番重要なのが、現場に備えられた使命者が私が味わう個人化の祝福を味わうように手伝ってあげることです。そうすれば、その人は弟子になります。その時、その人を通じて自然に開かれるのが地域を生かす地教会です。これを弟子化と言います。

3. 世界化 - その時から、世界化の答えが来るのですが、必ず聖書にある 12 部族、70 人の長老のように、重職者が答えを受けて、次世代(レムナント)が答えを受けて、絶えず現場で弟子たちが答えを受けようになり始めます。これを世界化と言います。

今から重職者は三つのチームを静かに作って行かなければなりません。1. 個人フォーラムチーム - 次の週から静かに長老たちどうし、勸士たちどうし、一、二人でも教会の中で個人フォーラムチームを作ってみてください。

そして、一緒に集まって伝道、みことば、祈り、この三つを一緒にフォーラムしてみてください(使徒 1:1~14、2:42、6:3~4、9:10、10:1~6)。

2. 地教会フォーラムチーム - 重職者たちが、このような答えを満喫する中で、地教会フォーラムチームを作ってください。この時、神様が動き人を付けてくださるでしょう(使徒 13:1~4、14:19~21、16:15、17:6、18:3~4、19:9、28:30~31)。

3. 世界フォーラムチーム - この時、いよいよ付いて来る答えが世界フォーラムチームが作られることです(使徒 19:21、23:11、27:24、ローマ 16章、1コリント 16章、コロサイ 4章)。ここまでが重職者が受ける当然な祝福で、必ず受けなければならない答えです。



神様の子ども五つの確信

1 救いの確信：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、1ヨハネ 5:10~13)

2 祈り答えの確信：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)

3 導きの確信：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)

4 赦しの確信：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(1ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)

5 勝利の確信：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、1ヨハネ 5:4)

神様の子ども毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

苦しんでいませんか？

生活では何も不足はないのに、何か心の片隅にさびしさが出て、どこかにふらりと出ていきたい人、無性に人が嫌いで、顔も見たくなくて話もしたくない人、仕事なら熱心にするのに気に入らないからもっと完璧を追い求める仕事中毒の人、何かしなければならぬような疲れる負担を抱いている、そのような人々を苦しむ人と言う。

世の中を生きてみると、私たちは願っても、願わなくても、多くの事件と問題に会って、自分の意図とは違うことに会う。

このような多くの難しさを直接、間接に出会うようになることを示して「苦しみ」と言うのだが、この言葉は仏教の「尸陀林」から出た。尸陀林は梵語のシタバナ(Sitavana)の音から出た言葉で、シタは「冷たい(寒)」という意味で、バナは「林」という意味だから、寒林 すなわち「冷たい林」という意味だ。尸陀林は、インド中部にあったマガダ国の王舎城の北門の外に森で、人が死ねば鳥が食べるようにする鳥葬の風習によって、死体を捨てる一種の共同墓地だった。鳥のえさになるように捨てられた死骸の山は死骸が腐る悪臭が漂って、鳥、特にはげたかがこれを見て飛んできた。徳を磨く修行者たちは、そこを苦行の場所で選んだりしたが、彼らが死体の間に暮らす理由は、肉体がいつわりであり、むなしことを悟るようにさせるためだ。しかし、死体の間で過ごさなければならない修行者たちは、ひどい恐怖と恐ろしさに苦しまなければならなかったから、後には罪人たちを追放して、そこに暮らすようにさせた。このように、いろいろな病気と死が流布する、地獄のような場所である尸陀林に入って行くこと自体が、すなわち苦行を示すことだったし、この尸陀林が苦しむという意味に転換されたのだ。

人ごとに何かに苦しんでいるが、もともと人間にはこんな苦しむことはなかった。なぜならば、創造



イラスト_シン・チョンウン

された人間には、完全な自由が与えられていたからだ。罪を犯すことができない人間は、不完全な自由を持った者だ。罪を犯すことができる自由があると完全に自由な人間だ。しかし、完全な自由は、守ることができるときに、維持されるのだが、人間はその完全な自由をサタンに渡して、不完全な自由の中に陥った。そのような状態を霊的な問題と言うのだが、その結果で現われる問題が、すなわち苦しみだ。苦しむことは、自分に足りないことが発見された時、現

われる現象だからだ。人間が神様を離れたとき、人間の状態は完全な自由を逃して、地獄と近接した混とんと暗やみとむなしさの冷たい中になるように、その時から完全を追い求める努力、すなわち、苦しみが始まったのだ。霊的に苦しんでいのちを見つけようと生活している者が、死骸の山で苦行して、精神的に苦しんで、絶えず迷って、肉体で苦しんで、方法に従って苦しみを受けて、生活の苦しみのいたちごっこのような退屈な生き方を繰り返すのだ。

本当に人間には道がないのだろうか。苦しみから自由を得る道はを見つけることはできないのか。聖書は、人間に完全な自由をくださった神様が、人間が逃してしまった道を取り戻すことができるように知らせる福音をくださったが、その道がキリストだ。本当に、このことばが正しいのなら、過去の苦しみは今日で終りだ。いまからキリストが私の心の主人になれば、私のすべての苦しみは、朝霧が東からの光で消えるように消えてしまう。問題でもない、恐れ苦しむすべての抑えられた人たち、福音を聞いてください！そして、完全に自由になってください！地獄の苦しみから出て、天国を味わってください。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ